



## 分娩第三期における生理学的管理 Role of the Midwife in Physiological Third Stage Labour

### 背景

分娩第三期は、新生児の誕生から胎盤および卵膜の完全な娩出までの時間と定義されている。

この第三期は、適応の時間である。産婦は徐々に母親になり、出産後のホルモンの・肉体的・感情的変化に適応していく。新生児も、子宮外の生活に適応していく。

分娩第三期を管理するための子宮収縮薬は必ずしも利用できるとは限らず、すべての産婦が使用に合意するわけでもない。

### 所信表明

助産師は、出産の場所または文化的・社会的環境に関係なく、子宮収縮と胎盤娩出の生理（すなわち分娩第三期）を理解しなければならない。

助産師の役割には、胎盤娩出時間と過程の定期的評価、出血の監視、産婦と新生児の全体的健康状態の評価が含まれる。

胎盤の生理的な娩出における助産師の役割には、陣痛・娩出の生理と新生児の適応とに関する情報を産婦に提供することも含まれる。

### 見解

すべての助産師は、子宮収縮薬を使わない胎盤の娩出に立ち会うことが求められる。そのため、分娩第三期の生理学的管理の知識は、基本的な助産能力と考えられる。

この能力には、助産師は産婦の出血およびこの出血の生理学的影響を継続的に評価し、必要に応じて処置を行うことも含まれる。

産婦が介入を受けない胎盤娩出を自主的に選択する場合、助産師は、産婦とその家族が意志決定をする上で必要なすべての情報を提供するように配慮しなければならない。

### 会員協会への指針

この所信表明は、ICM「助産師の定義」の役割と適用範囲、およびICMが助産師に期待する基本的能力の認識に基づくものである。また、自治の原則と、出産は妊産婦とその家族が情報・選択・インフォームドコンセントの権利を有する生理的プロセスであるという概念も認識している。会員協会に対しては、すべての助産師カリキュラムと現任教育プログラムに、分娩第三期の生理的管理における助産師の役割を取り入れることを求める。

### 関連 ICM 文書

- ICM「助産師の定義」（2005）
- ICM「基本的助産業務に必須な能力」（2002）
- ICM 所信表明「助産：自立した専門職」（2005）

- ICM 所信声明「女性と助産師の協力関係」 (2005)
- ICM 所信声明「出産時の適切な介入」 (2005)
- ICM 所信声明「出産における伝統と文化」 (2005)
- ICM/FIGO 共同声明「(仮訳)産後出血の予防と処置：リソースが乏しい状況のための最新事情」 (2006)

2008年、グラスゴーでの国際評議会にて採択

次回見直し予定：2014年

2010年1月(社)日本看護協会・(社)日本助産師会・日本助産学会訳

All rights, including translation into other languages, reserved. No part of this publication may be reproduced in print, by photostatic means or in any other manner, or stored in retrieval system, or transmitted in any form without written permission of the International Confederation of Midwives. Short excerpts (under 300 words) may be reproduced without authorisation, on condition that the source is indicated and that the ICM be informed.

他の言語への翻訳権も含めて、この出版物は著作権を有しています。国際助産師連盟 (ICM) から文書による許諾を得ることなく、本書の一部または全部を何らかの方法で複製することや検索システムに登録することなど、一切の伝播を禁じます。ただし、短い引用 (300語未満) に関して、許可は不要ですが、その場合は出典を明記し、ICM へご連絡ください。

Copyright © (2008) by ICM- International Confederation of Midwives,  
Eisenhowerlaan 138, 2517 KN The Hague, The Netherlands